

牧師所感：

モラルの没落を嘆く

冒頭の「モラルの没落を嘆く」出来事は、私の祖国韓国で起った出来事である。私は毎日韓国の友人とメールで持って、ニュースを交換している。日々のニュース交換は、嬉しい出来事の交換もあれば、悲しい出来事の交換もある。

ところで先日の出来事は喜びでもなく、悲しみでもない、怒りの消息であった。その出来事はソウル市内の電車の中での出来事である。1人の若者が優先席にあぐらをかけて座っていたらしい。その席の横に80歳中半の老夫婦が座っていたという。老人はその青年に少し足を横にずらしてもらいたい、と頼んだところ、突然立ち上がり、大声でののしり、暴言を吐いて喧嘩を売って来たと言う。電車の乗客の中には大勢の青年達もいたらしいが、誰も仲裁に入る青年がいなかったと言う。たまたまその光景を目撃した或る御夫人が、その場面をカメラに治めて、日本に住んでいる私にまでメールで送って来た。映像で見るところ、35、6歳の青年である。何と腹立たしい振る舞いである。

さて、韓国は今日でも儒教の教えが、残っている国である。のみならず韓国は仏教も盛んで、その教えは尊い。仏教のみではなく、キリスト教・カトリックも健在だし、教えも尊い。ではなぜ、韓国の若者がこうもいきり立っているのか。すべての若者という訳ではないが、確かにいきり立っている若者は、増え続けている。

韓国だけではなく、日本もしかし。世界的現象である。

さて、私は思う。世界をリードして来た米国も、今や倫理、道徳の面では、退廃の道を歩んでいる。

ところで日本はまだ、倫理・道徳の教えを尊重している国であることを喜ぶ。LGBTQの営みに対しては慎重にその行方を守っている。さて今の世界は黒いニュースばかりではない。米国のニューヨークにICM（インターナショナル・クリスチャン・ミニストリー）の団体（キリスト教）が存在する。ニューヨークのマンハッタンを宣教基地として、伝道活動を開拓している。ところで世界各国から移民した人々の暮らし（ホームレス）を助ける運動に従事している。主に青年を中心であるが、キリストの愛を実践する活動を開拓している。当教会も愛の実践として数年間、活動費を援助している。日本円で毎月2万円を送っている。

これらの運動はイエス・キリストの教訓を実践する運動である。「汝の隣り人を愛せよ」。その実践としてロシアとウクライナの戦争の終結を祈り、またイスラエルとアラブ（ハマス）の戦争が終るように祈っている。

主よ、この世界に平和をもたらして下さい。

アーメン